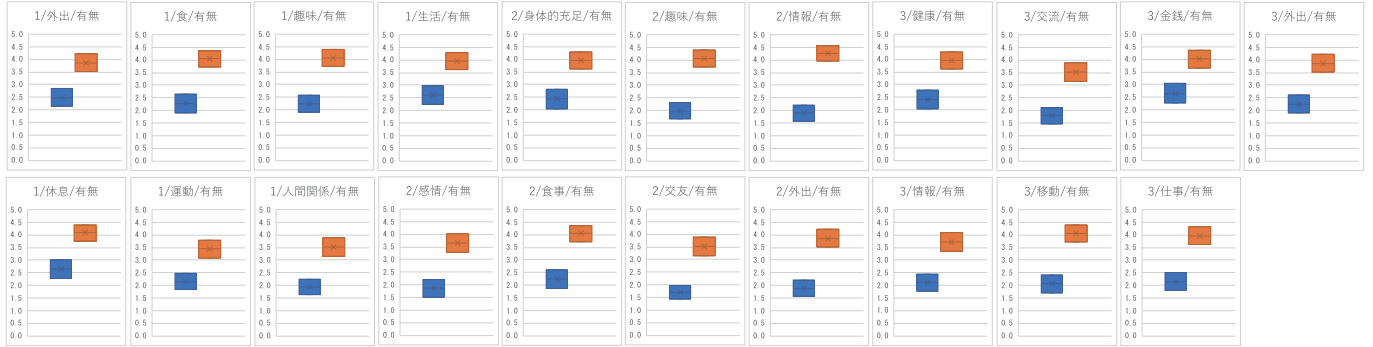


1	有無	頻度	いつ	量	内容/質	2	有無	頻度	いつ	量	内容/質	3	有無	頻度	いつ	量	内容/質
外出	○	△	△	×	×	感情	○	×	△	△	×	健康	○	△	×	×	△
休息	○	×	×	△	△	身体的充足	○	△	×	×	△	情報	○	△	×	×	×
食	○	△	×	×	△	食事	○	△	×	×	△	交流	○	△	×	×	×
運動	○	△	×	△	△	趣味	○	△	×	×	△	移動	○	△	×	△	×
趣味	○	△	×	×	△	交友	○	△	△	×	×	金銭	○	△	×	×	×
人間関係	○	△	×	×	×	情報	○	△	△	×	×	仕事	○	△	×	△	△
生活	○	△	×	△	△	外出	○	△	△	×	×	外出	○	△	×	△	×

図5 Wilcoxonの符号順位検定の結果 (1. 体の調子 2. 心の様子 3. 社会との関わり)



値：順位(0-5) ■(左の値)知りたいこと ■(右の値)知られたくないこと / 1. 体の調子 2. 心の様子 3. 社会との関わり

図6 95%信頼区間

6. 二次アンケート調査の結果

83名の回答を得た。分析の方法は図4の通りで、最も平均順位に差が現れた項目に着目する。平均順位の違いの値が大きいものは、知りたいかつ知られても構わないこと、つまり共有に使いやすい項目であり、平均順位の違いの値が小さいものは、知りたい希望が少なく、知られることに抵抗があること、つまり共有に用いづらい項目であることが考えられる。

すると、遠隔地に住む家族の体の様子を感じ取る目的として共有に用いやすいと考えられるのは、「趣味の有無」、心の様子を感じることは「情報の有無」、社会との関わりについては「移動の有無」であった。

反対に、遠隔地に住む家族の体の様子を感じ取る目的として共有に用いづらいと考えられるのは、「運動のいつ」、心の様子を感じることは「情報の内容」、社会との関わりについては「移動の内容」であった。

7. 推測統計

前節の平均順位の違いが有意であるか、Wilcoxonの符号順位検定($\alpha=0.01$)より検証した。結果は図5の通りで、知りたいことの順位の方が高く、有意であったことは、共有に使いやすい項目として○、知られたくないことの順位の方が高く、有意であったことは、共有に用いづらい項目として×、有意でなかった項目は、どちらともとれないとして△で表現した。加えて、共有に使いやすい項目については、95%信頼区間を求めた。結果は図6に示す通り、全ての項目において重なりがなかった。

カテゴリー	①		②		③		④		⑤		⑥		⑦		⑧	
	平均順位	順位化	平均順位	順位化	平均順位	順位化	平均順位	順位化	平均順位	順位化	平均順位	順位化	平均順位	順位化	平均順位	順位化
外出	2.49	1	3.87	5	1.37	1	4	1	2.57	2	2.81	2	0.24	2	0	2
有無	3.39	4	2.95	3	-0.43	3	-1	3.5	3.64	5	3.19	4	-0.45	4	-1	3.5
頻度	2.92	3	2.18	1	-0.73	5	-2	5								
いつ																
量																
内容・質																

①: 知りたい順に順位付けした回答の平均値を出す ⑥: ⑤の値を順位付けする

②: ①の値を順位付けする ⑦: ④-②

③: ④: 知られたくないことも同じように行う ⑧: ⑦の値を順位付けする

④: ③-①

図4 分析方法

8. まとめ

本研究では、遠隔地に住む家族間で状態共有をする際に、適切な情報について明らかにした。

結果、共有に使いやすいと考えられる項目は、体の調子、心の様子、社会との関わりの中のいずれを感じ取る場合においても、また、あらゆる内容においても、行動等の「有無」を知る程度の共有を行うことである。

今回の研究では、共有情報の提案にとどまったが、以後この結果をもとに、どのように家庭内で状態共有を行うか検討する予定である。

参考文献

- 総務省, 人口動態・家族のあり方等 社会構造の変化について.
- ユーザーローカル テキストマイニングツールによる分析.
- 谷口千明, 原田真衣, 小島尚之, 山田悟史: 情報技術を用いた遠隔コミュニティ内の状態共有の意識調査, 日本建築学会 第43回情報・システム・利用・技術シンポジウム, 2020-12.